



## 岩見沢市医師会の活動状況

－会員としての所感－

岩見沢市医師会 理事  
牧病院 副院長  
牧 雄 司

1888年にオスカー・ワイルドによって発表されたイギリスの短編小説『幸福の王子様』をご存知でしょうか。先だって、ある方から「医師は幸福の王子様なのだろうか」と問われたのである。物語の要旨は割愛するが、そこに描かれているのは完全な献身であるのか、はたまた歪んだ自己犠牲であるのか、その模範解答はなく読み手次第なのかもしれない。いずれにしても己よりも他者の健康を大事と考えるわれわれのどこかには『幸福の王子様』との共通項が見出せるかもしれない。

奇しくも同時期の1884年（明治14年）に鉄道の要所として岩見沢村が開村した。その後、明治40年には近隣の医師らによって『空知医師会』が設立され、大正9年に『空知外三郡医師会』、昭和17年に『空知第一支部』を経て『岩見沢支部』へ、そして終戦後はGHQの勧告による日医・道医の全面機構改革に伴い、昭和22年に会員24名で『岩見沢市医師会』が発足した。その中でも脈々と続けられている医師会活動について、この場を借りてご紹介する。

岩見沢市医師会は本年4月に一般社団法人に移行し、倉増秀昭会長が3期目となられる。全会員134名、8病院、49診療所（その他を含む）が所属しており、岩見沢市内、幌向、栗沢、志文、美流渡などで医療圏が構成されている。50年以上も前の話にはなるが実質的な看護師不足が叫ばれていたことに端を発し、当医師会が昭和42年4月に医師会附属看護高等専修学校を設立し運営を担った。以来、2千名を超える准看護師を輩出しており地域医療への貢献度は大であろう。

昭和53年には当医師会が運営する夜間急病センターを開設し、現在は必要不可欠な存在として市民に広く浸透している。また、内科・外科・小児科を主体にした休日・夜間救急当番を積極的に続けることができるのは現会員の努力と先達のご尽力によるものであろう。加えて市内にある小中高を分担し合っの学校健診や予防接種事業も行われている。

所属医療機関においては看護の日フェアを開催し、さらに担当科の垣根を超えて一体となり市民への情報発信を行う『ふれあい健康まつり』と題した地域保健活動も活発さを増しており、それぞれに能動的な行事を展開している。また、学術講演会の定

期的実施や岩見沢市立総合病院および北海道中央労災病院を会場にした実戦的なケースカンファレンス、在宅医療連携の充実、医療安全管理研修会・感染対策研修会も熱気に包まれており人気が高い。

これ以外にも数多くの事業や会員交流などが定期的に行われており、岩見沢メディカルゴルフクラブは50年の歴史を有している。中でも盛況なのは市街地に囲まれた緑々しい総合公園内で開催される『野外園遊会』であろう。昭和48年に始まり今年で41回を迎えるが、会員のみならず職種を問わないスタッフ、看護学生など総勢270名がジギスカンや焼鳥などに舌鼓を打つ。そこには体感型のゲームもあり、笑顔絶えない光景は至福のひと時である。その雰囲気誌面で紹介しきれないのが残念でならない。

もちろんほかの地区と同様、岩見沢および周辺地域も高齢化と過疎化の流れは止められず、当医師会においても医師や看護師不足・医療過疎についてかなりの議論がなされてきた。しかしながら解決は容易ではない。果たしてこれから20～30年後の予測データを眺めながら地域医療への貢献を旨としていけるのであろうか。モチベーションを維持していくその先には一体何が待ち受けているのだろうか。昔も現在も混沌とした時代であることに違いはない。その中で研鑽を積みながらも自分自身が偏在せぬよう、そして己の身を削り続けるだけの存在にならぬように気を付けていかなければならない。

